

ウェブ・アンケート調査からみえる若手研究者問題  
——大学院生・大学非常勤講師の立場を中心に——

日本歴史学協会  
若手研究者問題特別委員会  
浅田進史

### 1 ウェブ・アンケート調査について

- ・ 2013 年～、日歴協若手研究者問題検討委員会の発足  
←西洋史若手研究者問題検討 WG (西洋史若手 WG) の提言  
\* 問題を提起する側と受け止める側の関係性の構築
- ・ 2015 年 9 月～翌年 3 月、日歴協ウェブ・アンケート調査  
先行モデル＝日本社会学会若手研究者問題特別委員会、西洋史若手 WG  
回答数 518 名 (全年齢対象)、想定よりも少ない、関心の希薄化? 学会への不信?  
\* 日歴協自体の問題: 学会連絡・交流組織としての役割を果たすための体制はできていたか
- ・ 2017 年 2 月、中間報告書の公表、3 月中間報告シンポジウム
- ・ 2020 年 1 月以降、立場別報告書公開開始、10 月最終報告& 討論会・動画公開

### 2 「大学院生の立場」報告書にみる「生きづらさ」

- ・ 経済的困難＝とくに修士課程・OD の 8 割が不満、博士課程での二極化  
\* 文献購入、調査資金不足→研究費の私費依存の高さ  
地域間格差、国立 (二極化) / 私立 (週平均労働時間の長さ)
- ・ 大学院生女性: 研究時間の確保の困難←複合的な要因、私費依存、外部資金の割合の低さ、週当たり労働時間の多い層への固まり、給付奨学金<貸与奨学金
- ・ ハラスメント: セクハラ＝女性の 16.7% が直接経験 「同世代で強く感じる」  
パワハラ・アカハラ＝女性の 4 割弱、男性の 1/4 が直接経験  
「同じ大学間で使いまわし」「断る雰囲気醸成されにくい」  
\* ガイドラインの策定、実態調査、相談・報告窓口の設置要望
- ・ 修士課程の指導への不満がやや高いこと、OD のカリキュラムへの満足度の低さ
- ・ 世帯形成＝男性の 6 割以上、女性 5 割が困難を感じると回答

### 3 「大学非常勤講師の立場」報告書にみる「生きづらさ」

- ・ 回答者の 9 割が任期なし研究職志望、7 割強が教員・学芸員など専門職志望  
\* 修士号・博士号の取得割合 2:8⇒常勤の大学教員、研究業績の平均も 1~2 本の差  
\* 研究者番号をもつ者は 2 割
- ・ 経済的困難: 調査資金、文献購入、学会・研究会参加  
\* 男女とも高く、さらに男性にいつそう高い数値  
→ただし女性に低所得が多い (8 割強が 200 万円未満)
- ・ 時間的困難: 研究時間＝男女とも 7 割弱、学会・研究会参加＝女性 8 割弱 女性がやや高い

- ・ハラスメント：セクハラ→女性 4 割弱、男性 2 割弱＝直接経験  
    パワハラ、アカハラ→男性 4 割、女性 3 割弱＝直接経験 \*不安定な立場  
    「みんなストレスが溜まって・・・そのはけ口に」  
    「大多数を占める男性研究者の多くが女性研究者を順当に教育するための技術や理念をも  
    って」いない
- ・ワーク・ライフ・バランス：  
    世帯形成・子どもをもつことの困難：男性の 6～7 割、女性の 5 割  
    出産・育児の困難：女性の 7 割弱、男性の 4～5 割  
    親の介護：男女とも 5 割が困難
- ※同居形態：男性＝「本人のみ」単身者 4 割、女性＝「配偶者／パートナー」6 割強  
    既婚者は男女とも主に「配偶者／パートナー」と同居  
    ⇨45 歳未満大学教員既婚者女性 65%が「単身赴任／両住まい」  
    「とにかく…経済的な問題が第一に大きい」／「教育と研究に費やす時間と資金が多すぎて、  
    通常の人生…が送れませんし、単年度契約ですので、将来設計が全くできません。」／「雇  
    用保険がないため、年金・社会保険料・住民税等の支払等に家計が圧迫」／「授業時間しか  
    勤務時間とみなされない…認可保育所に子どもを預けることが非常に困難」／「人生を捨て  
    て親を介護するか、親を捨ててこれから先の人生を採るかの二択…戦々恐々」／「仕事継続  
    のために休養の必要な病気にならないよう、研究・仕事をセーブ」／「『若手』問題の一方  
    での『老後』問題も切実」

#### 結びに代えて——歴史学界・学会に何ができるのか

- ・経済的安定、心理的安定を：歴史学コミュニティの一員としての意識が持てるように
  - ・歴史学での大学院修了者にキャリア形成の道すじを
  - ・大学院生と大学非常勤講師：学会・研究会と関わり続けるために経済的・時間的ハードルを下  
    げていく
- \*ジェンダーの視点をもつことで何が制約になっているのかが明確に

#### 【参考資料】

日本歴史学協会若手研究者問題特別委員会の取り組み

- 1)「若手研究者問題」解決に向けた歴史学関係者の研究・生活・ジェンダーに関するウェブ・アンケート  
    調査中間報告書(2017 年 2 月)

<https://drive.google.com/file/d/0B8fllPqZQC2xSlowZFRrS3dUYWs/view>

- 2)シンポジウム「歴史学の担い手をいかに育て支えるか～日本歴史学協会『若手研究者問題』アンケ  
    ート調査中間報告から～」(2017 年 3 月 4 日)

<https://sites.google.com/site/jhcwebsurvey/>

- 3)「若手研究者問題」解決に向けた歴史学関係者の研究・生活・ジェンダーに関するウェブ・アンケート調査立場別報告書(2020 年 1 月～10 月)

[http://www.nichirekikyo.com/young\\_researchers/jhc\\_wakate\\_references.html](http://www.nichirekikyo.com/young_researchers/jhc_wakate_references.html)

- 4)「若手研究者問題ウェブ・アンケート最終報告&討論会」(2020 年 10 月 19 日)

- ・ 報告資料、発表動画一覧

[http://www.nichirekikyo.com/young\\_researchers/jhc\\_wakate\\_forum20201019.html](http://www.nichirekikyo.com/young_researchers/jhc_wakate_forum20201019.html)

- ・ togetter まとめ

<https://togetter.com/li/1611079>

- ・ 参考資料 (リンク先後段)

[http://www.nichirekikyo.com/young\\_researchers/jhc\\_wakate\\_references.html](http://www.nichirekikyo.com/young_researchers/jhc_wakate_references.html)

- 5)学会ハラスメント防止の取り組み

- ・ 歴史学関係学会ハラスメント防止宣言 (2020 年 7 月 15 日、賛同学会・研究会受付中)

[http://www.nichirekikyo.com/anti\\_harassment/anti\\_harassment.html](http://www.nichirekikyo.com/anti_harassment/anti_harassment.html)

- 6)新型コロナウイルス感染症対応

- ・ 「新型コロナウイルス感染症対応下での教育現場における非常勤講師・兼任講師への適切な配慮と対応を求めます (呼びかけ)」(2020 年 4 月 22 日～)

[http://www.nichirekikyo.com/young\\_researchers/covid19.html](http://www.nichirekikyo.com/young_researchers/covid19.html)

- 7)歴史学関係資料のオープンアクセス化の取り組み

- ・ 国立国会図書館デジタルコレクションによる学会誌のインターネット公開についてのご案内 (2020 年 9 月 30 日～)

[http://www.nichirekikyo.com/young\\_researchers/ndl\\_digicolle.html](http://www.nichirekikyo.com/young_researchers/ndl_digicolle.html)